

共同研究「明治地籍図の集成的研究」の概要と経過

青山宏夫

① 目的

明治前期に政府の指示で作成された地籍図は、全国の各村ごとに同一の基準・様式で土地の位置・地目および所有関係を記録した大縮尺の絵図である。したがって地籍図は近代初頭の詳細な地域の歴史情報をビジュアルに伝える貴重な歴史資料であり、これまでも近代史研究だけでなく、古代・中世史や歴史地理学の荘園・村落・城館研究や景観復元などで活用されてきた。しかし、六〇年代の法改正により法定図面の性格を失って以降、その保存と利用の環境が悪化し、各自治体や法務局における地籍図の保存と利用の保証をもとめて研究が行われてきている。本研究はこのような現状をふまえて、いくつかのモデル県を対象に明治地籍図の所在確認と原本調査にもとづくデータ収集・公開、そして地籍図作成過程の共同研究の成果を公表することを通じて、全国レベルで明治地籍図の歴史資料としての保存と活用の体制が確立することをめざすものである。

② 研究組織（◎は研究代表者 ○は副代表）

〔共同研究員〕

- | | |
|-------|-----------------------|
| 五十嵐勉 | 佐賀大学・農学部・准教授 |
| 岡村一幸 | 白杵市教育委員会・主任 |
| 河崎幸一 | 滋賀県立彦根高等学校校定時制・教諭 |
| 川名 禎 | 國學院大学・講師（非常勤） |
| 木下晴一 | 香川県埋蔵文化財センター・主任文化財専門員 |
| 櫻井成昭 | 大分県立歴史博物館・主任学芸員 |
| 田中 聡 | 長岡工業高等学校・准教授 |
| 鳴海邦匡 | 甲南大学・文学部・准教授 |
| 額田雅裕 | 和歌山市教育委員会・文化財班長 |
| 則竹雄一 | 獨協高等学校・中学校・教諭 |
| 橋村 修 | 東京学芸大学・教育学部・准教授 |
| 渡部浩二 | 新潟県立歴史博物館・主任研究員 |
| ◎青山宏夫 | 国立歴史民俗博物館・研究部・教授 |
| 小島道裕 | 国立歴史民俗博物館・研究部・教授 |
| ○高橋一樹 | 国立歴史民俗博物館・研究部・准教授 |
| 吉村郊子 | 国立歴史民俗博物館・研究部・助教 |
- *所属は平成二二年九月一日現在

③ 経 過

〔平成一六年度〕

七月三〇日 税務大学校租税史料館における地籍図調査
八月二三～二四日 滋賀県安曇川町および今津町における地籍図調査
九月二七～二八日 広島大学附属図書館および香川県歴史博物館における地籍図調査

一月一二～一三日 滋賀県木之本町江北図書館における地籍図調査
二月四日 大津市歴史博物館における地籍図調査
二月二七日 国立歴史民俗博物館における研究会

〔平成一七年度〕

五月一九～二〇日 大津市歴史博物館および仏教大学における地籍図調査
八月三〇日 群馬県立文書館における地籍図調査

一一月一八日 税務大学校租税史料館における地籍図調査

一二月一一～一二日 大分県立先哲史料館および大分県立図書館における地籍図調査

一二月一六日 税務大学校租税史料館における地籍図調査
三月四日 税務大学校租税史料館における地籍図調査および研究会

〔平成一八年度〕

七月二三～二四日 大分県立図書館における地籍図調査
九月二九日 新潟県立文書館における地籍図調査

二月一～二日 和歌山市立博物館および和歌山県立図書館における地籍図調査

二月一五～一六日 米原市山東庁舎における地籍図調査
三月三～四日 新潟県立文書館における地籍図調査および研究会

なお、本共同研究に先行して、資料の集成を主たる目的とする歴史研究部特別経費（当時）による「非文献資料の基礎的研究」の個別課題「明治地籍図の集成的研究」が、平成一四年度から四年計画で着手されている。その後、本館における研究組織および研究体制等の改革が行われ、歴史研究部特別経費による「非文献資料の基礎的研究」は新たな枠組みのもとで共同研究として進められることになったため、個別課題の「明治地籍図の集成的研究」を共同研究として再組織したものが本共同研究である。同個別課題としての「明治地籍図の集成的研究」が実施された平成一四・一五年度の二年間には、研究の着手段階であることから各地の地籍図に関する研究報告を中心とする研究会を開催するとともに、滋賀県をはじめ和歌山県、大分県などの明治地籍図について所在確認と原本調査、ならびにデータ収集とその入力作業等を行ってきた。その研究経過については以下の通りである。

〔平成一四年度〕

七月八日 国立歴史民俗博物館における研究会

一一月二〇～二一日 青山宏夫「明治地籍図の作成と種類」
滋賀県木之本町江北図書館および高月町役場における地籍図調査

一月二一日 国立歴史民俗博物館における研究会
河崎幸一「滋賀県の明治期の絵図類について」
額田雅裕「和歌山市における地籍図の残存状況」

海津一朗「県内各市町村の『旧地籍図』保管状況についての調査と現況」「和歌山の荘園調査と地籍図利用について」

一月二九～三〇日 滋賀県湖北町役場および高月町役場における地籍図調査

三月一〇日 国立歴史民俗博物館における研究会

岡村一幸「地籍図作成前史―大分県臼杵の事例―」
田中 聡「新潟県立文書館史料所在調査の記録から―佐渡地区―」
渡辺浩二「新潟県の市町村における地籍図調査状況」
小島道裕「明治期地籍図（一村図）の主な種類と作成経緯―滋賀県―」
大分県臼杵市立図書館および大分県立歴史博物館における地籍図調査

〔平成一五年度〕

六月一八～一九日 国立歴史民俗博物館および東京大学教養学部地理学教室における地籍図調査
七月二二～二三日 和歌山市立博物館および和歌山県立文書館における地籍図調査
九月二九～三〇日 滋賀県浅井町役場における地籍図調査
一月二九～三〇日 和歌山県粉河町役場における地籍図調査
二月一九日 国立歴史民俗博物館における研究会

青山宏夫「基盤研究（共同研究）に向けて」
五十嵐勉「島根県の地籍図に関する研究」
川名 禎・橋村修・三河雅弘「地籍図データベース作成の概況報告」

岡村一幸「地籍図作成前史」
渡辺浩二「『越後国三島郡蓮華寺村田畑屋敷其外地引絵図』の紹介」
櫻井成昭「大分県立歴史博物館所蔵の地籍図関係資料」

さらに、本館における地籍図に関する前史としては、開館もない

一九八三年四月六日に「公図の源流を探る―『地籍図』の意義と保存―」と題する講演・座談会・展示が本館講堂と研修室で開催されたことをあげなければならない（図1）。この主催者は日本地理学会地籍図研究グループと財団法人地図情報センターであるが、本館も後援という形で参画した。これは、本館で開催された企画性のある展示のうちで、もっとも初期のものの一つといえる。

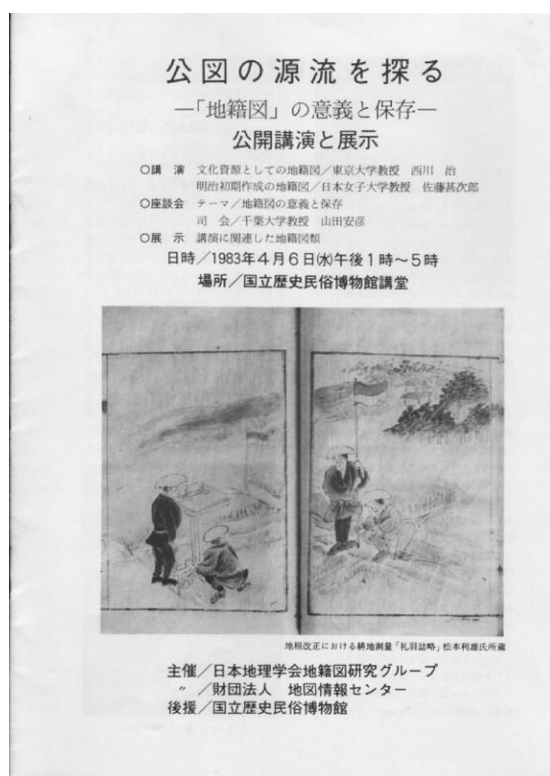


図1 「公図の源流を探る―『地籍図』の意義と保存―公開講演と展示」パンフレット（表紙）

④ 成 果

本共同研究は、各地に所蔵された地籍図一点一点を確認しながら、形式や記載内容、様式等の基礎的データの記録や撮影などを通じて、地籍図の所在情報の集成と地籍図作製過程や資料論的検討を行ったものである。地籍図が、明治前期にかぎっても数次にわたって、しかも全国的に作製され、また村全図ばかりでなく字ごとにも作成されたことを考慮するならば、その点数は膨大な数にのぼる。これらの地籍図を網羅的に集成することは、期間の限られた共同研究においてはほとんど不可能である。われわれがめざしたのは、地籍図を悉皆的に調査することではなく、いくつかの県をモデルとして選び、むしろ地籍図を確実に把握することによって、モデルとして選ばれた各県における地籍図の所在状況や地籍図作製過程の検討を行うことを重視した。これにより、地籍図の所在状況や作製過程のいくつかのパターンを例示することができた。

また、この調査活動を通じて、これまで未確認であった地籍図の発掘や未公開となっていた地籍図の調査を実現し、資料化することができた。さらに、われわれの地籍図調査によって所蔵機関の地元でも地籍図への関心が高まり、自治体史や調査報告書が刊行されるという効果ももたらした。白杵市教育委員会編（二〇〇五）『白杵市所蔵絵図群調査報告書』や高月町編（二〇〇六）『高月町史 地域・文化財編 一―二』などがその例である。

以下では、資料所蔵機関ないし地籍図該当地域ごとに、本共同研究の成果をとりまとめた。執筆には、本共同研究員のほか、随時調査に協力して頂いた堀健彦氏（新潟大学人文学部准教授）ならびに三河雅弘氏（本館外来研究員）があたり、山形県、愛知県、奈良県を中心とした税務大学校税務情報センター（旧租税史料館）所蔵の地籍図、および新潟県、滋賀県、和歌山県、香川県、大分県の地籍図を取りあげた。もとより、

明治前期地籍図の網羅的調査を目的としたものではないが、これにより東北地方から九州地方までのかなり広域の事例をカバーできたことになる。地籍図の作成や残存の状況などは各地の事情により大きく異なることも少なくないが、本共同研究の成果は、今後の各地における地籍図に関する調査研究のための一つのたたき台、さらには地籍図保存活動のための契機となることを期待したい。

最後に、本共同研究において、地籍図等の調査にご協力いただいた所蔵機関および関係各位に御礼申し上げる。

（国立歴史民俗博物館研究部、共同研究代表者）
二〇一〇年九月二八日受付、二〇一〇年十一月三〇日審査終了